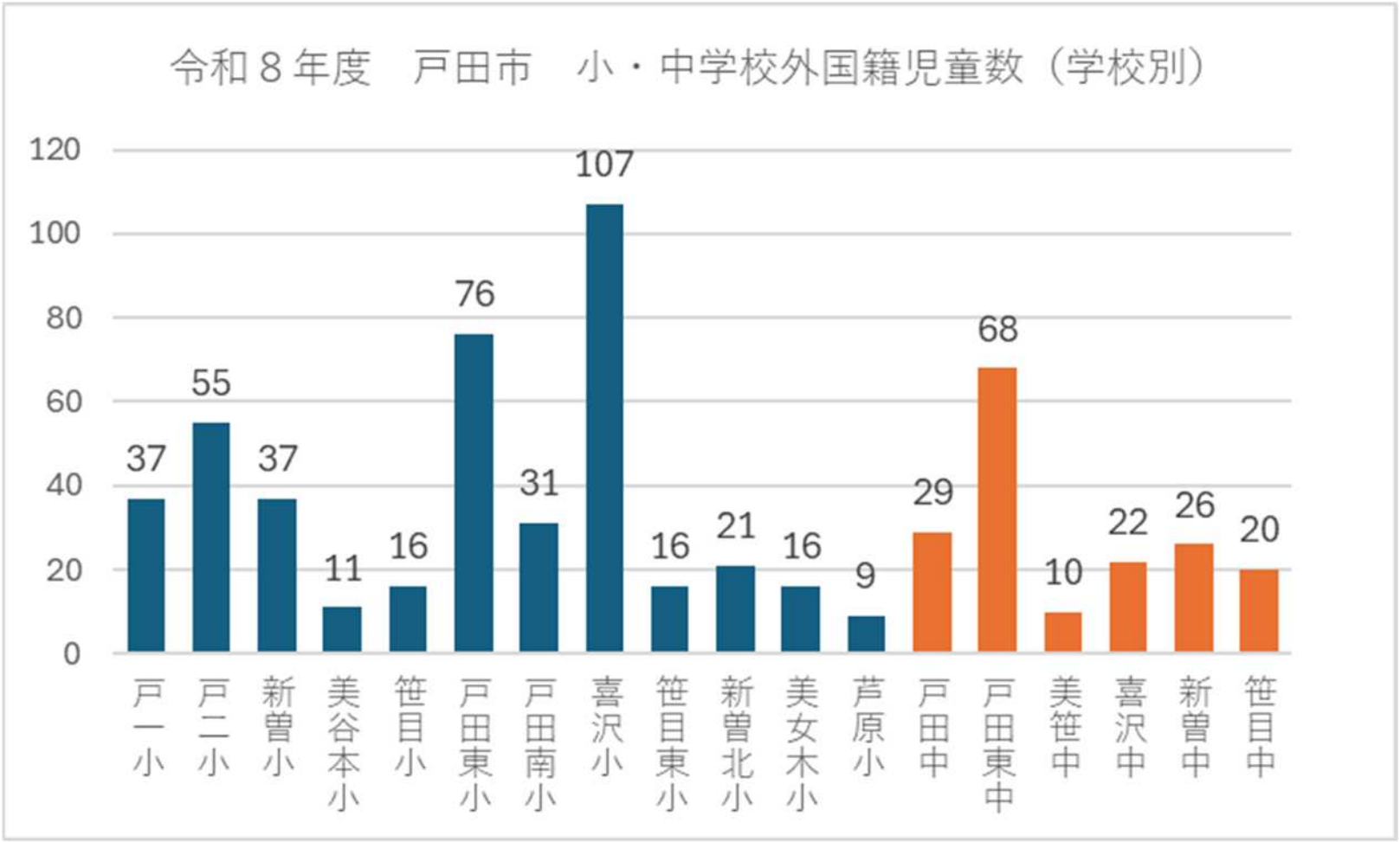
# 外国籍の児童生徒の現状と課題等について

# 令和８年度の状況



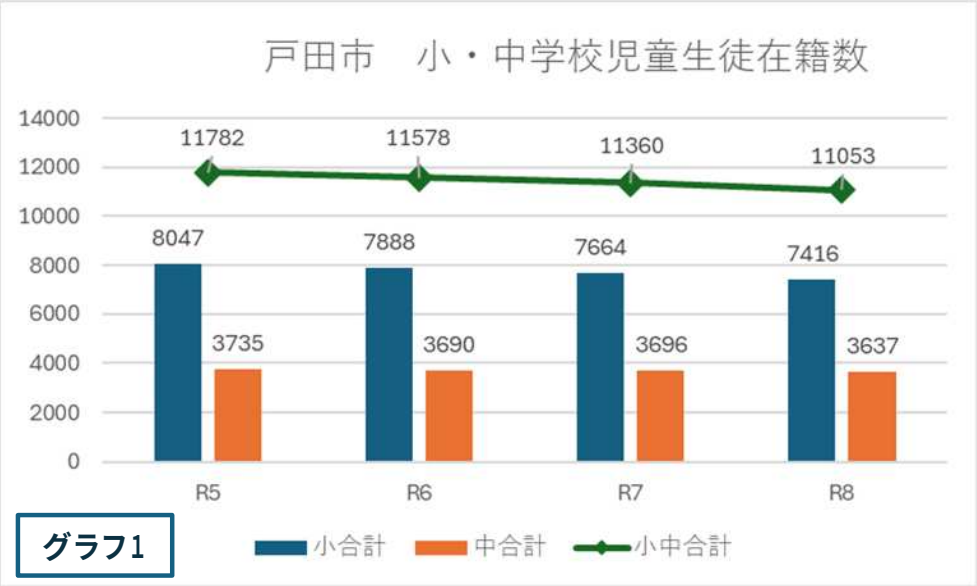

**内訳（国名）**

| | |
|---|---|
| 中国 | 430名 |
| ベトナム | 35名 |
| フィリピン | 33名 |
| 韓国 | 29名 |
| ネパール | 24名 |
| バングラデシュ | 8名 |
| モンゴル | 7名 |
| パキスタン | 7名 |
| ミャンマー | 5名 |
| 台湾 | 5名 |
| インドネシア | 4名 |
| ブラジル | 3名 |
| マレーシア | 3名 |
| インド | 2名 |
| ガーナ | 2名 |
| ギニア | 2名 |
| トルコ | 2名 |
| イラン | 1名 |
| オランダ | 1名 |
| ケニア | 1名 |
| スリランカ | 1名 |

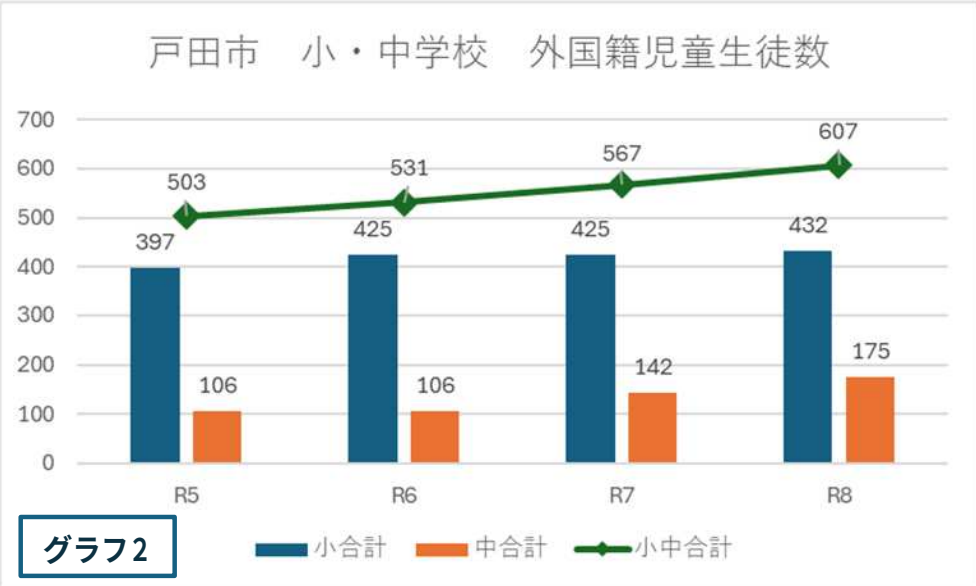
・戸田市東部に位置する小・中学校に多く在籍している傾向にある

・中国が群を抜いて多く、東南アジアの国が多い

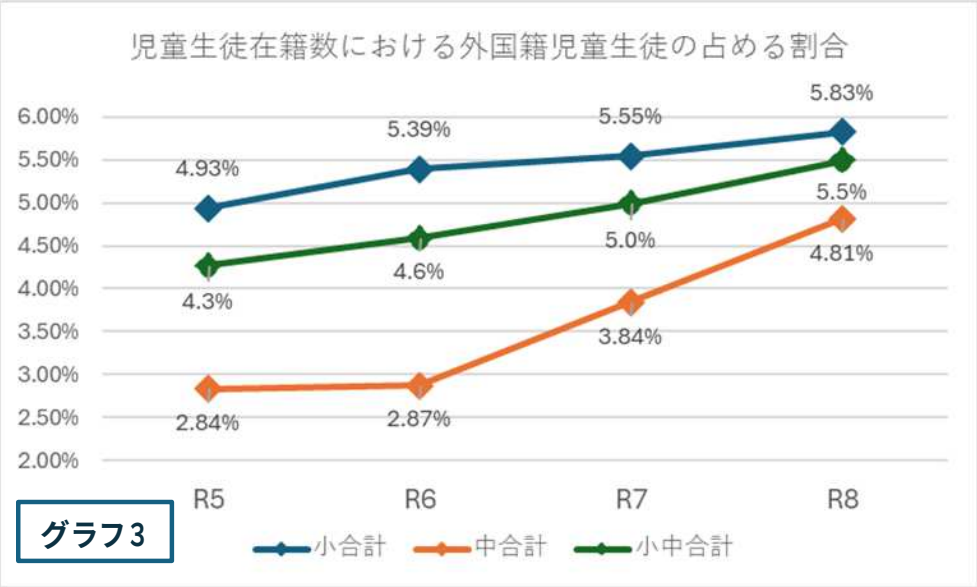
# 令和５年度～令和８年度の状況




グラフ1




グラフ2



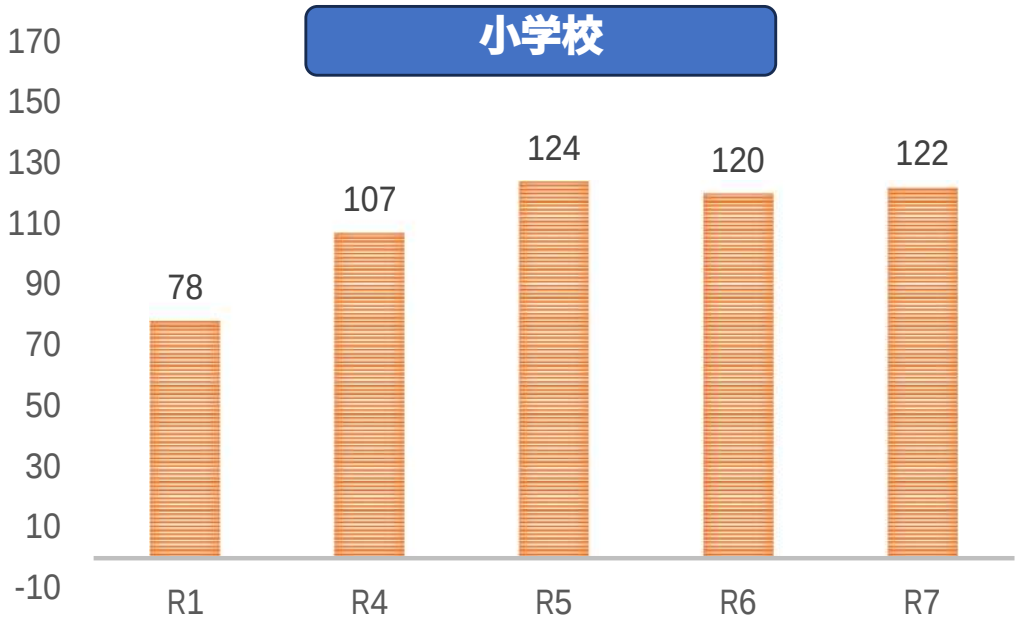

グラフ3

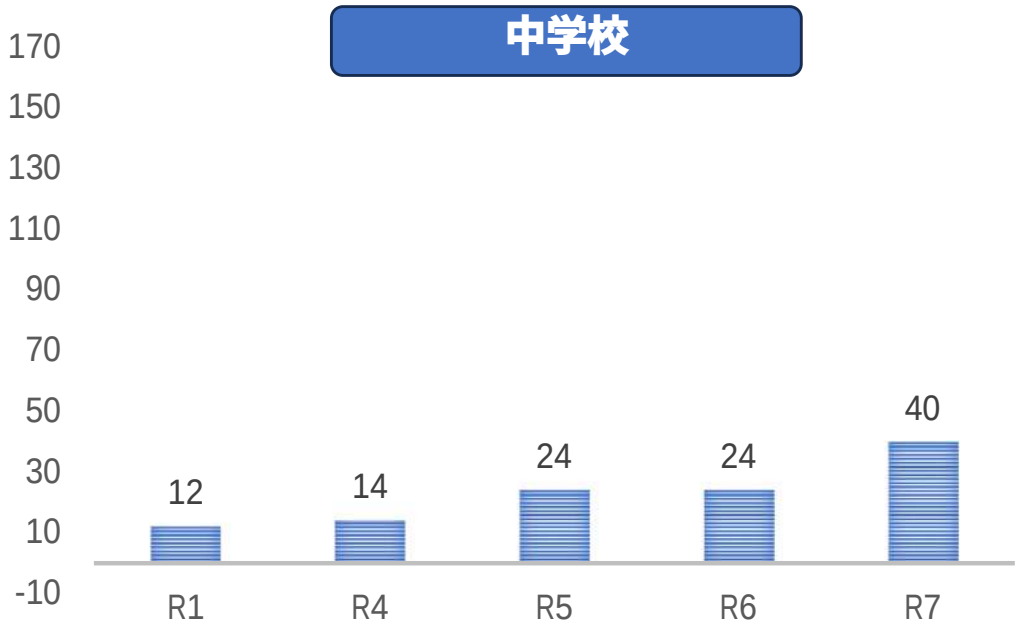
- 児童生徒在籍数は小･中ともに微減傾向　(グラフ1)
- 外国籍児童生徒数は小･中ともに微増傾向　(グラフ2)
- 外国籍児童生徒の占める割合は増加傾向　(グラフ3)
  →特に中学校においては令和６年から約1%ずつ増加

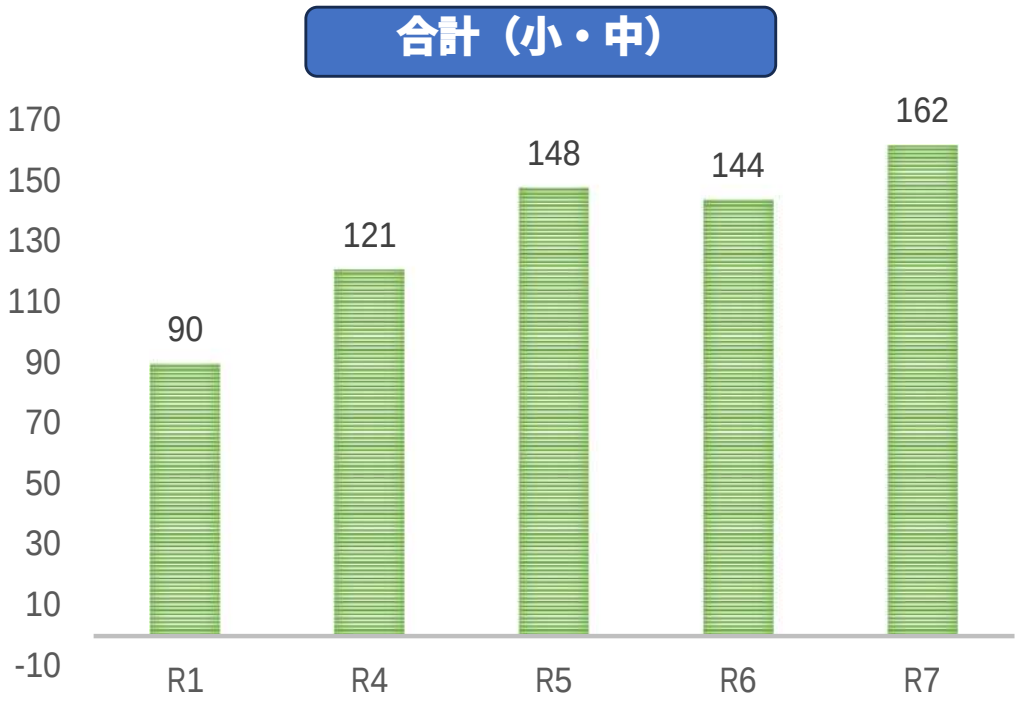
- 今年度より日本語指導の教員も基礎定数化
- 日本語指導対象児童１８名に対し教員1名
- 令和８年度日本語指導対象児童１５４名

→ 日本語指導教員９名

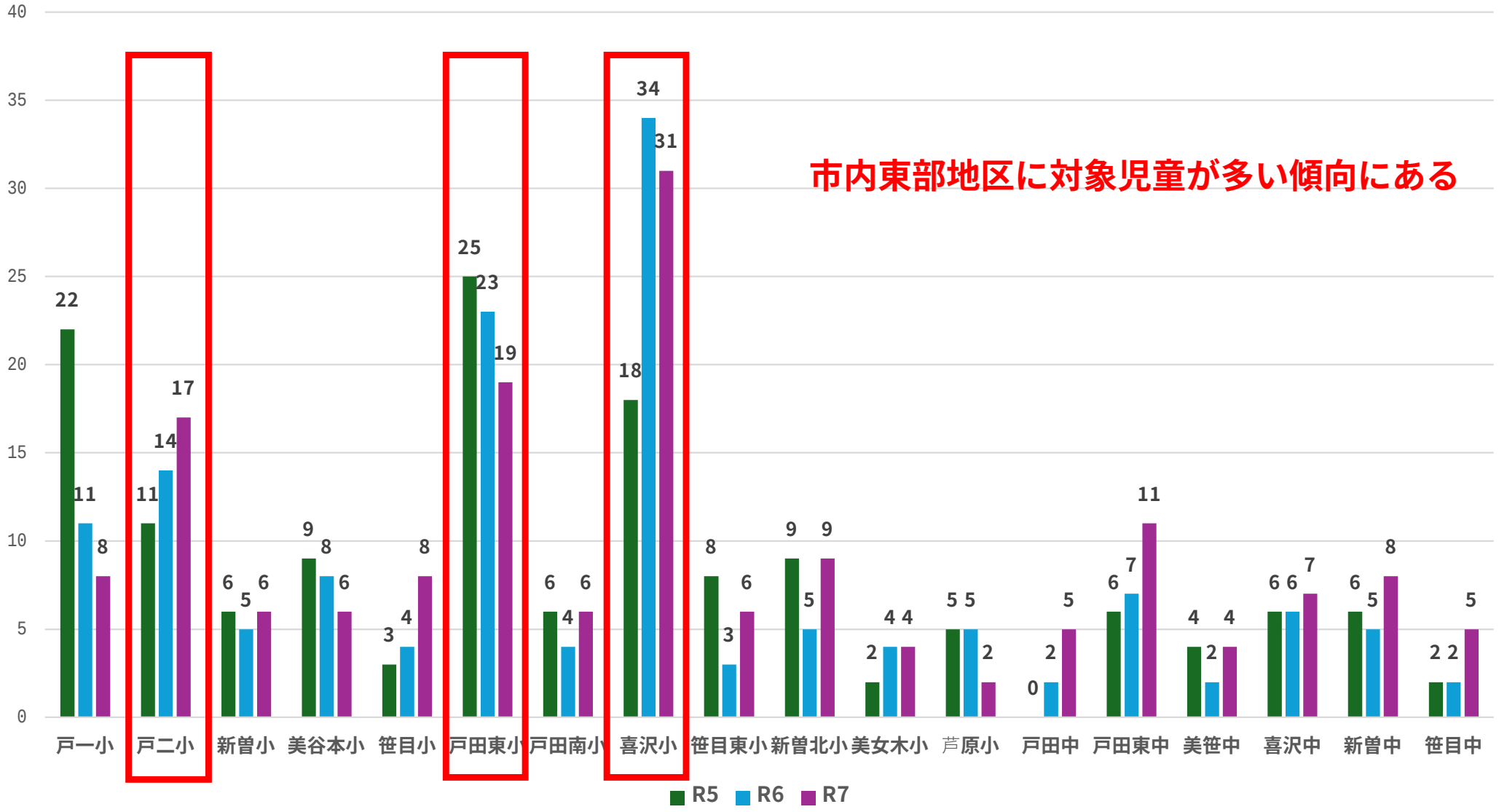
# 戸田市における日本語指導が必要な児童生徒数の推移



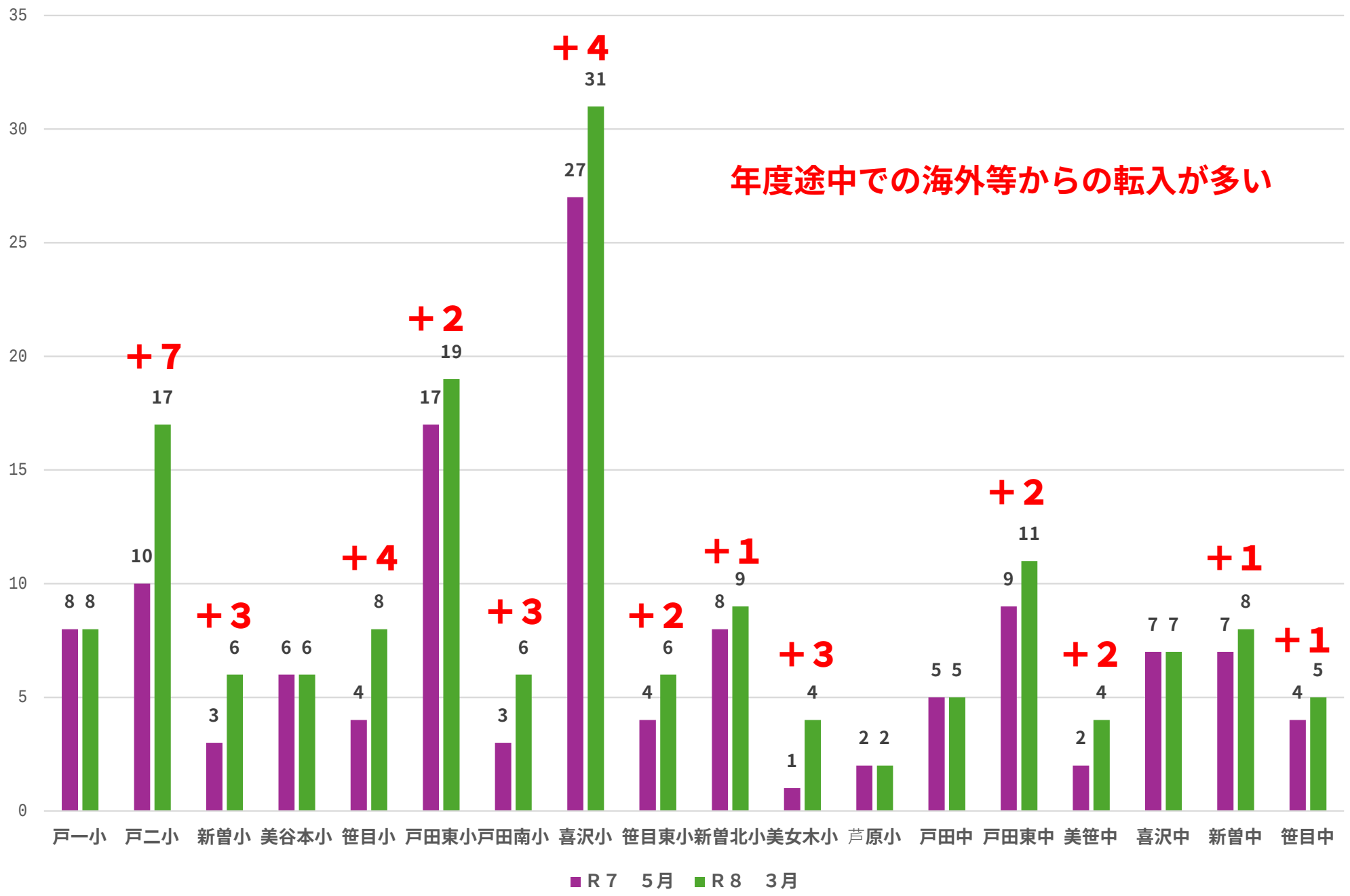
# 戸田市における日本語指導が必要な児童生徒数の推移




**市内東部地区に対象児童が多い傾向にある**

| | 戸一小 | 戸二小 | 新曽小 | 美谷本小 | 笹目小 | 戸田東小 | 戸田南小 | 喜沢小 | 笹目東小 | 新曽北小 | 美女木小 | 芦原小 | 戸田中 | 戸田東中 | 美笹中 | 喜沢中 | 新曽中 | 笹目中 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R7対象児童生徒割合 | 1.00% | 1.91% | 0.84% | 1.90% | 3.13% | 1.93% | 0.79% | 7.33% | 0.99% | 1.40% | 0.67% | 0.30% | 0.77% | 1.78% | 1.42% | 1.43% | 0.80% | 0.75% |

# 日本語指導対象児童生徒数の年度内の変化（R7）



# 日本語指導に関する現状と課題

【現状】
〇日本語指導対象児童生徒数は**増加傾向**。
〇**年度途中での海外からの転入**児童生徒も多い。

〇年度当初に日本語指導教員や教育センター日本語指導員が市内小・中学校の外国籍児童生徒等を対象に**日本語能力のレベルチェック**を行い、日本語指導対象児童を決定している。

〇県の配置基準に基づき、日本語指導対象児童生徒数に応じて、日本語指導教員を市内小・中学校に配置。
〇教育センター日本語指導員が対象児童の教育相談、日本語指導教員の支援等を行っている。

【課題】
〇年度途中の海外等からの転入児童については、教員数に反映できず、配置している教員が対応しなくてはいけない。
【例】
日本語が全く話せない児童１人につき、週２時間は指導が必須のため、教員の指導時間が週２時間増加。

〇日本語指導にあたる教員は、はじめて日本語指導を行う教員や経験の浅い教員が多く、支援が必要。
〇日々の連絡や生徒指導、教育相談、進路指導など、本人や保護者に正確な情報を伝えることが難しい。

# 戸田市における日本語指導について

・日本語指導が必要な外国人児童生徒への日本語指導
　**取り出しによる個別指導・入り込みによる支援**
・学校生活や日常生活への**早期対応の支援**
・新規児童生徒に対する「**日本語レベルチェック**」
・管理職や学級担任との連携、他の教職員への情報共有や研修
・個別の指導計画の作成

## 教育センター日本語指導員による教育相談

○平成１４年度指導開始（２４年目）
○平成２９年度から５名に増員

市内小・中学校への日本語の訪問指導およびサポート
日本語指導が必要な児童生徒へのアセスメント
日本語指導が必要な児童生徒および保護者との相談　等

## 日本語指導教員による日本語指導

○令和６年度
市内小学校５校に６名を配置
○令和７年度
市内小学校５校に６名を配置
市内中学校１校に１名を配置
〇令和８年度
市内小学校７校に７名を配置
市内中学校２校に２名を配置

県の配置基準に基づき、日本語指導対象児童生徒数に応じて教員数が決定

１人あたり週１～２回の日本語指導を実施

# 戸田市における日本語指導について

多様なサポート
スタッフがいます

## 市立教育センター

### 教育心理専門員

土日も
相談できます

- 児童生徒、保護者などの相談
- 早期就学相談
- 発達検査の実施
- 5歳児発達健診での相談

など

### 教育支援センター「すてっぷ」

不登校の子供たちと
保護者をサポートします

- 不登校対策の拠点
- 不登校児童生徒に応じた支援プログラムの実施
- 不登校児童生徒の保護者支援

など

### 教育相談コーディネーター 心の教育アドバイザー

学校と関係機関を
つなぎます

- 学校と各関係機関をつなぐ教育相談体制の構築
- 小・中学校、幼稚園・保育園と連携、訪問、相談
- 一人一人の教育的ニーズに応じた就学相談

など

### 日本語指導員

日本語の学びを
サポートします

- 市内小・中学校への日本語の訪問指導およびサポート
- 日本語指導が必要な児童生徒などへのアセスメント
- 日本語指導が必要な児童生徒および保護者との相談

など

**【資格】**
**・日本語教育能力検定試験合格者、日本語教師養成講座（４２０時間以上）修了者またはこれに準ずる者**

**【勤務形態】**
**・週１～３日**
**・１日につき３時間または６時間**

**【現在の状況（Ｒ８．６月現在）】**
**・市内小・中学校に訪問し、児童生徒の教育相談や日本語指導教員の支援を実施。（合計　週４２時間）**

# 戸田市在住の子供のための日本語教室

○毎週金曜日（午後５時から８時まで）
○戸田市立教育センター会議室で開催
○ボランティアによる日本語教室・学校の学習支援
○１９名の児童生徒が参加（令和８年６月現在）
【小学生】１１名　【中学校】８名　　計１９名







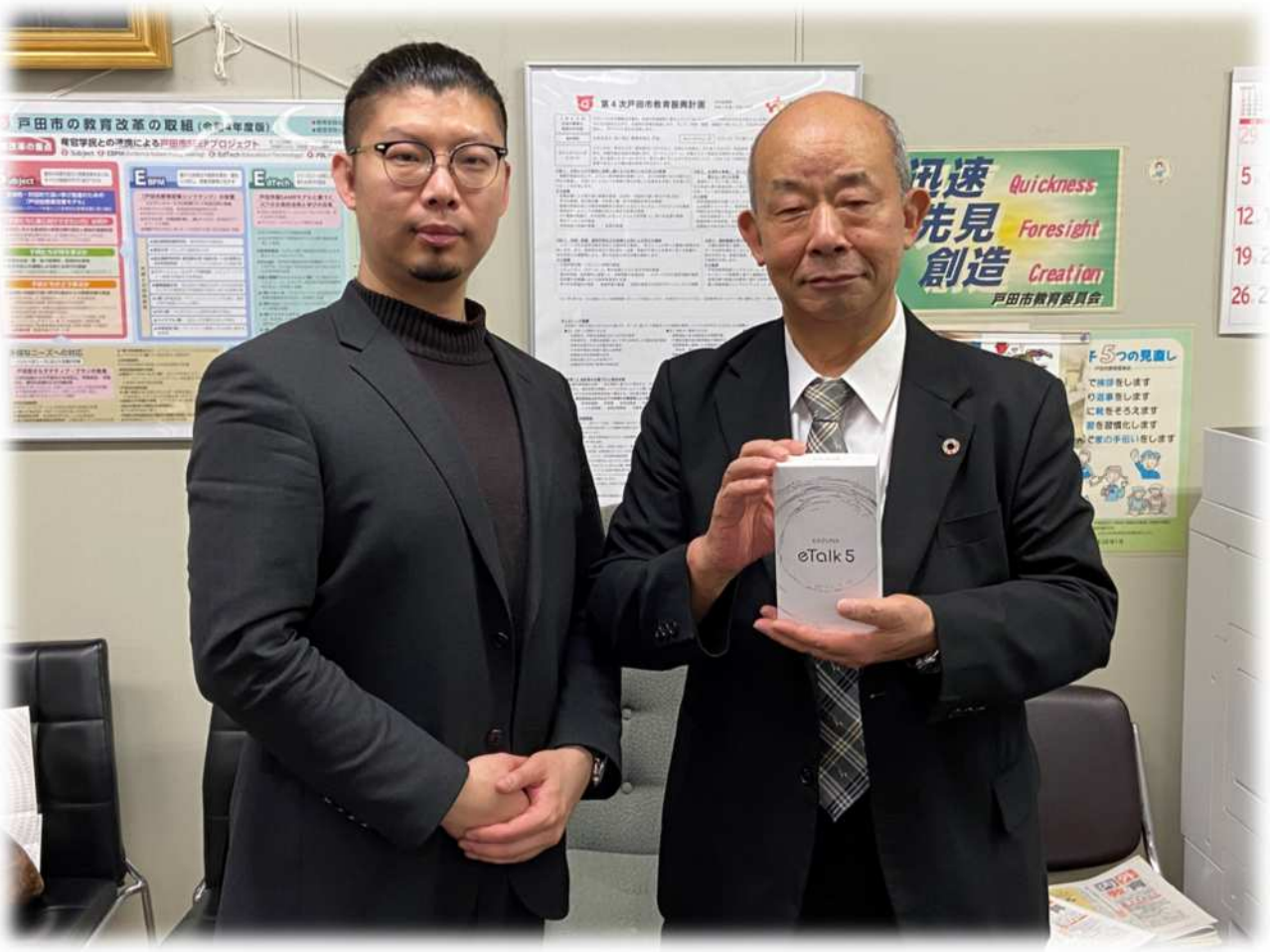
# 日本語指導教員研修会




年間４～５回、日本語指導教員を対象に指導力向上に向けた研修会を実施

・外国人児童生徒等教育アドバイザー（文部科学省）の派遣要請
・教育センター日本語指導員による師範授業
・日本語指導教員どうしの情報共有、協議　など

# 株式会社インバウンドプラットフォームとの連携協定




## 多言語翻訳機「e-talk5」




**外国人児童生徒等の個々の状況に応じた学びの支援のために、連携協定を締結（R5.5.30）**
**多言語翻訳機「e-talk5」を５０台無償提供**

要請のあった市内小・中学校１４校に合計４２台、多言語翻訳機「e-talk5」を貸出。
※その他、年度途中の転入や保護者対応など状況に応じて貸出。

# 【令和８年度新規事業】日本語初期指導教室

**【概要】**
喜沢小学校内に「日本語初期指導教室」を設置し、業務委託により、日本語指導を行う。
（委託業者：株式会社学研エル・スタッフィング）

対　　象：来日して間もないなど、日本語能力が初期段階の児童　　※対象校（予定）：喜沢小・戸二小・戸田東小
場　　所：喜沢小内の日本語初期指導教室および関係校の日本語指導を行う教室
指導時間：月～金の１時間目～４時間目
期　　間：１期につき１ヶ月程度を予定
人　　数：１期につき１８名程度を予定　※期間の途中での転入があった場合は、途中から指導開始






日本語初期指導教室での指導を終えた児童は、**通常の日本語指導教員による指導（週１～２時間程度の入り込み指導）へと接続**される。

## 喜沢小における指導について

- 喜沢小学校内の「日本語初期指導教室」に指導者を配置する。
- 年度当初や転入等があった場合には児童のレベルチェックを行う。
- 日本語初期指導教室対象児童がいない期間は日本語指導教員の支援や入り込み指導を行う。

## 戸二小・戸田東小における指導について

- 転入が多い長期休業明けを中心に、状況に応じて指導者を派遣する。
- 転入等があった場合には児童のレベルチェックを行う。
- 派遣されている期間は、喜沢小同様に１ヶ月程度、毎日指導を行う予定。
- 転入児童がいない場合には、代わりに日本語指導教員の支援等を行うことも想定される。

**【事業に係る今後の予定】**

３月　関係校との打ち合わせ実施

４月　**日本語初期指導開始（喜沢小）**
各校、対象児童の確認
レベルチェックの実施
**第１期指導開始（４～５月）**

６月　状況によって第２期以降開始

８月　**戸二小、戸田東小の転入等の状況および対象者の確認**

９月　**戸二小、戸田東小での指導実施（９～１０月を想定）**

11月～3月　状況によって関係校での指導実施

# 【令和８年度新規事業】日本語初期指導教室



４月から喜沢小学校で指導開始

対象児童：１５名　小１：４名　小２：２名　小３：１名
小４：２名　小５：なし　小６：６名

１ヶ月の集中的な日本語指導を通して、６名が学校生活及び授業におけるコミュニケーションに必要な基礎的な日本語を習得。他の児童についても補習のうえ、順次、７月中に在籍学級の生活および授業へと接続していく予定。